



最近の小事 —自然災害と避難—

シビル NPO 連携プラットフォーム個人正会員 星野 隆幸

「最近、異常気象なのか大雨が降り、私の住む宮崎県日南市でも記録的な雨が降り続いた、雨が降り続くと、行政メールが避難勧告、避難指示を伝えてくるのだが、今回とても気になった事がある。何回目かのメールで避難勧告が発令された、その内容は、日南市全域に避難勧告が発令され警戒レベル 4 であるとの事である。日南市の人口は減少しているとはいえ、5 万余の人口がいる、各避難場にその全ての住人が避難できるのか甚だ疑問が残るのである。

ウェザーニュースの平成 29 年度の調べによると、避難所に避難した人の割合は全国平均 6% 以下であるらしい。ここで言う避難所なのだが、あくまで公的な避難所のことなのである。

熊本地震が起こった時、公的避難所に避難しようとしたが、小さい子供がいるとか、ペットがいるとの理由で避難所に行くことを遠慮して、近隣の公園等に集まりテント等を設営して避難している方がいた、その方達の中には支援物資が届かなかった所もあるらしい、自衛隊の方達は、東北震災で自己避難している方達がいる事を経験で知っていたようでわざわざ探して独自に支援物資を届けたところもあるとの事である。

では、公的避難所（ここで言う公的避難所とは、行政が避難所として設置または指定している場所や建物の事）にどれほどの人が避難できるのか収容できるのかである、国では災害対策基本法、同施行令さらに避難所運営ガイドライン等色々なものが出ている、確かに、最低限の規則やルールは必要であるが、

いざ命に関わる緊急時点で、公的避難所であろうが自己避難であろうが、緊急避難に違いは無いのではないかと、結果命が助かればそこが避難所なのではないかと、想定外といつも言うが想定外の考え方は違うのではないかと、そもそも想定すること自体が無理なのではと思う。自然災害が起こす結果を想定するなど出来る訳が無い、想定して備えればそれ以上の被害を考えない事になる、備えはいくらあっても良い、無駄になればその事が、正常な日々が続いている証になるのであるから。

日南市は、太平洋に面している、日向灘沖地震が起こる可能性があり、津波対策で高台に避難する場所が指定されている。先日、近所の避難場所に行ってみた、避難場所への誘導看板や標高が記載された看板が設置されていてわかりやすく感じたのだが避難場所に続く道は人一人がやっと通れる幅で、ほとんど手入れはされていない、高台の避難場所も同じで手入れされていない広場があるだけだった、この広さに近隣どれだけの人が避難できるのだろうか、避難してきたその後はどれほどの期間何も無いこの場所で過ごすのだろうか、とても不安になった、その時に命が助けられればそれで良い、それ以上は必要無いのであればこの避難所も最適な場所なのかもしれない。

これからも異常気象は続くと思われる、避難について再考する事が必要であることは間違い無い、自らが自らの命、家族の命を守り、そして他人の命を守るにはどのような行動を取れば良いのか家庭で、職場で話し合う機会を持つ事が大事である。